

「こころの和と輪」を大切にした医療を

**診療案内**

診療科目  
精神科・心療内科

診察時間  
月～金 9:00～12:30  
火・木 13:30～17:00

休診日  
土・日・祝祭日・年末年始

**北海道立向陽ヶ丘病院**  
<https://kouyogaoka.hospital.hokkaido.jp>  
 〒093-0084 北海道網走市向陽ヶ丘 1-5-1  
 TEL0152-43-4138(代) FAX0152-43-4365

ホームページ 紹介動画

## 謹賀新年

令和3年、西暦2021年になりました。

昨年は誰にとっても新型コロナウイルスが生活に大きく影響を及ぼしました。

**密閉**  
**密集** **密接**

昨年の流行語大賞に「3密」が選ばれ、他にも感染流行に関連した言葉が複数トップテン入りしていたことが、何よりもそれを端的に表していると思います。

様々な場面で変革を求められ、また我慢を強いられた1年。

年末年始の帰省を控えた方も多いのではないのでしょうか。

病院の運営もまた、新型コロナウイルスにより大きく影響を受けています。

感染症を扱う病院はもちろんのこと、当院のような精神科病院もまた例外ではありません。

人が集まり会話をしたり身体的に接触したりする場、つまり「3密」が容易に生じる場ですから、何も対策を講じなければ感染の発生リスクは少なくありません。

外来も病棟もすべて休止してしまえばリスクはゼロになりますが、それでは病院



が必要な機能を果たせなくなります。

感染対策を行いながらも、いかにして当院の機能を維持していくか。

簡単な課題ではありませんが、職員一同力を合わせて当院の役割を果たす、つまり「こころの和と輪」を大切にした医療を提供し続けられるように取り組んでいきたいと思ひます。

どうか今年もよろしくお願ひいたします。

院長 みかみ のぶひろ 三上 敦大

# 当院の感染対策

2018年度から、ICT(院内感染制御チーム)の委員長を務めております。

当院では、2017年3月から4月にかけてインフルエンザの院内感染を経験しましたが、そのことを受けて見直しを行い、対策を講じてきました。以降、インフルエンザの院内発生は防止できています。

また2018年度からは、感染対策地域カンファレンスへの参加を開始し、周辺医療機関との連携を図っています。



そうした中、2020年1月末頃から新型コロナウイルス感染症の蔓延が始まりました。

当院でも、過去の経験を踏まえて、感染対策に関する意識改革は進んだものの、新興感染症としての新型コロナウイルス感染症対策に、より厳密な対応を行う必要が出てきました。



ICT：感染制御チーム(Infection Control Team)の略称

感染対策地域カンファレンス：斜網地域の病院が感染対策について年4回集まり、連携している(現在4施設)。

感染症治療を行う一般の医療機関でも、試行錯誤しながら対策を講じる中、感染症治療を行う医療機関ではない当院が、直ぐに十分な対策を講じることが出来るのは容易なことではないと思います。

総合病院のように、専門的な感染対策の助言が院内で得られる訳でもありません。スタッフの知識や設備も十分とは言えません。当院の治療対象が精神疾患に特化されており、やむを得ない側面があります。

しかしながら一方で、地域における精神科医療の基幹病院としての、万全な感染症対策の上、治療を行う必要があります。そのためにも地域カンファレンスでの情報交換など地域医療機関から



助言や協力を頂き、身体治療における当院の役割を果たす必要があります。ワクチンや、治療薬が出来るまで試行錯誤は続きます。



インフルエンザや新型コロナウイルス感染症とは直接関係しないことですが、今後高齢者など感染症リスクの高い患者の治療の必要性は益々増大し必須のこととなります。

今回の感染症蔓延を機に病院全体としての意識改革のチャンスとして捉えることも可能だと思います。

病院全体で知恵を持ち寄りながら進んでいけるように微力ながら貢献したいと思っています。

わたなべ かずよし  
医長 渡邊 一由

# 成年後見制度用診断書の改訂

成年後見制度は、自己決定の尊重、残存能力の活用、ノーマライゼーションといった新しい理念を取り入れ、平成12年4月、民法の改正により導入されました。制度の導入に当たり、最高裁判所は、利用者の便宜に資するよう、本人の事理弁識能力(自分の行為の結果について合理的に判断する能力)についての判断資料として用いられる診断書の書式を作成し、その後、幅広く利用されてきました。

**成年後見制度**とは、認知症などによって判断能力が低下してしまっている人がいる場合に、その人をサポートする人を家庭裁判所から選任してもらう制度のこと。

その場合、その人の**医師による診断書**が必要となる。

平成28年5月、成年後見制度の利用の促進に関する法律が施行され、平成29年3月には、成年後見制度利用促進基本計画が閣議決定され、医師が家庭的・社会的状況等に関する情報も踏まえて行った医学的判断をより的確に表現することができるよう、従前の診断書の書

式を改定するとともに、福祉関係者が本人の生活状況等に関する情報を記載し、医師にこれを伝えるためのツールとして、新たに「本人情報シート」の書式を作成することとなり、平成31年4月より運用が開始されました。

## ●診断書改訂のポイント

### ①判断能力についての意見欄の見直し

意思決定支援の考え方を踏まえ、「支援を受けて契約等を理解・判断できるか」との表現に改定

### ②判定の根拠を明確化するための見直し

自由記載としていたものを改め、障害の有無等を記載する欄を新設  
(1)見当識、(2)他人との意思疎通、  
(3)理解力・判断力、(4)記憶力の  
4項目について記載欄を新設

## ●本人情報シート

医師が的確に判断するため、本人を支える福祉関係者から、医師に対し、本人の日常及び社会生活に関する客観的な情報を提供することにより本人の生活上の課題が見えるようになる。

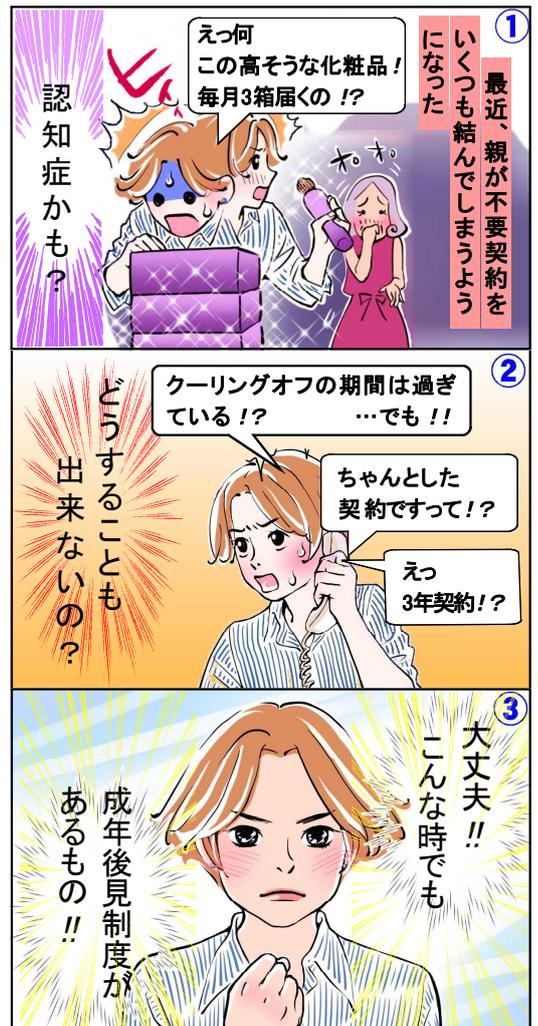
これらより、従前の診断書より、診断プロセスを分かりやすく記載できる診断書になりました。当院で診断書を作成する場合、1~3回程度の診察・検査が必要になり、最終診察後、診断書完成までに2週間~1か月程度の期間が必要になります。

また、本人情報シートは、初回診察日の1週間前に、ご提出いただきますようお願いしています。医師に本人の生活状況等に関する情報を的確に伝えるため、福祉関係者の皆様のご協

力をよろしくお願いいたします。

尚、診断書ご希望の場合は、まずは新患予約が必要になりますので、下記までお電話をお願いします。

認知症疾患医療センター (TEL/FAX 0152-44-0500)



# つながる地域連携

当院地域連携室は2017年に設置され、地域の医療機関・福祉施設・保健機関等と当院をつなぐ地域医療の窓口の役割を担っています。



具体的な主な業務は以下のとおりです。

## 受診調整

地域の医療機関・福祉施設等から当院に患者さまを紹介していただく際、受診予約と診療情報提供書を受け付けます。

患者さまが他医療機関を受診される場合、受診調整と情報提供を行います。

患者さまからの医療相談、医療費相談、訪問看護相談を行います。

また、在宅で安心して暮らすためのサービスや制度等に関する相談などを行います。

## 相談窓口

地域の医療機関・福祉施設

等から当院に患者さまを紹介していただく際、受診予約と診療情報提供書を受け付けます。

入院初期の段階から、関係機関と情報共有を行い、必要

## 退院支援

時ケア会議の調整などを行います。

また、転院調整や退院に向けた相談・情報共有等を行います。

## 地域連携室



地域で生活されている患者さまの情報を、必要に応じて関係機関へ提供させて頂いております。

また、患者さまのみならず関係機関からの、お問い合わせ等にも対応いたします。

## その他

昨年度までは3名体制（室長1名、副室長1名、精神保健福祉士1名）でしたが、今年度より4名体制（精神保健福祉士が1名増員）となり、患者さまが地域で安心して暮らすため、関係機関と密に連携



しかつ速やかに対応できるようより努力しているところです。

そして、地域連携室の活動をさらに充実・拡大に向けて頑張っています。

何分、至らない点が多くご迷

惑・ご不便をおかけしているところもあると思います。ご意見、ご要望があればいつでもお聞かせいただければ幸いです。

今年もどうぞよろしくお願いいたします。

地域連携室 電話 0152-43-4138(代) FAX 0152-61-2058(直通)

# デイケア復職プログラム

- 月～金(9:00～16:00)
- 昼食あり(1日参加の場合)
- 自立支援医療が利用可能

※見学又は参加を検討中の方は、気軽にお問い合わせ下さい。  
☎0152-43-4138内線720(デイケア)



## 外来の予約・変更 電話受付時間

事前に、電話又は窓口で、受診日の予約・変更をお願いします。

新患予約	9:00～17:00
再来予約・変更	13:30～17:00

※月～金曜日(年末年始・祝日を除く)  
当日の予約・変更は出来ません

受付窓口

- 外 来: ☎ 0152-43-4138 (代)
- もの忘れ外来: ☎ 0152-44-0500

## 編・集・後・記

令和3年、新たな年を迎えましたが、新型コロナウイルスとの戦いは続いています。

当院も職員全員で緊張感をもち、感染対策に取り組んでいるところです。

今年はオリンピック開催が叶うのか未だわからない状況にありますが、地球上のすべての人が一日も早く、安心して生活できる日常にもどれることを祈ります。(H)

